

# 一帯ゆるき

(明治四十年寮歌)

田中義麿君 作歌  
高松正信君 作曲

一

一帯ゆるき石狩の  
源遠く霞罩め  
五彩を染むる夕照は  
手稻の夏の榮にして  
そこに無限の恩寵あり  
是吾校の在る処

二

胡沙吹く風に秋闌けて  
黄葉散りしく牧場千里  
満野の吹雪叱咤する  
エルムの姿壮なれや  
そこに無限の偉力あり  
是吾寮の在る処

三

偲へば遠き三十年の  
榛莽あしたの日を蔽ひ  
ゆふべの月に熊吼ゆる  
北海の野に鋤入れて  
偉人が植ゑし桜花  
薫は高し千万古

四

海を距てて南の  
空の彼方を眺むれば  
古人の道は跡もなく  
文明の徳は尚成らず  
溟濛天に漲りて  
帰鳥夕に彷徨ひぬ

五

颺々として風狂ひ  
北海の潮黒むとき  
電光淒く駛りては  
鬼啾々の声すなり  
破邪の剣を右手にして  
起てるは誰ぞや吾健児

六

岩間に咽ぶ溪流も  
明日は黄河に波うたむ  
蟄竜遂に雲を呼び  
鳳雛やがて時を得て  
扶揺に搏つて騰りなば  
蜩蜩遂に影もなし